

# 空回りする業務改善を 自律・納得・効果的な業務改善へ

業務改善と言わても、  
何をすればいいか分からぬ



問題を認識し、納得をもって  
改善を進める拠り所が無い

業務改善を  
進めてくれる人がいない



現場の人才が自律的に  
活動する時間・スキルが無い

## SRE(サイト信頼性エンジニアリング)<sup>※1</sup> により課題を解決

数値根拠で評価し、納得しながら進められる  
自動化で時間が生まれ、他の活動に注力できる

日本のIT文化では  
難しい要素を排して  
SREを導入



お客様の状況・  
環境に合わせて  
導入を検討

CI/CD  
DevOps  
コンテナ  
内製化  
専門チーム

**エッセンス**  
信頼性・スピード・  
コストのバランス  
ソフトウェアによる  
自動化

1部署で局所的に  
エッセンスを導入

**最適化**  
課題解決を継続的に実践・改善し、  
独自のSREに最適化  
課題解決  
プロセスを確立

**文化の浸透**  
組織全体への横展開  
課題解決の仕組みを  
備えた組織とする

特長

フルセットのSREよりも安価に始められる  
局所的な導入から始め、リスクを最小化できる  
段階的な改善なので運用変更の負担を低減

※1:SRE(Site Reliability Engineering)とはソフトウェアツールを使用して、システム管理やアプリケーション監視などITインフラストラクチャタスクを自動化する方法論。開発チームからの頻繁な更新、スケーラビリティに対し、ソフトウェアシステムの信頼性を向上させる。

## サイト信頼性エンジニアリング支援ソリューション

### 導入

#### コンサルテーション

### 導入支援

### 運用改善・自動化支援

#### Step1

#### 導入コンサル

オブザーバビリティ導入対象の見極め

お客様に導入済みのツールを有効活用するごとに可能



#### Step2

#### 運用実態の可視化

運用課題や自動化すべき作業の見極めを行うためのオブザーバビリティ製品を導入



#### Step3

#### 運用分析

運用実態を分析し、さらなる改善を提案



#### Step4

#### 運用改善

自動化により信頼性、スピード、コスト向上



**リアクティブな運用の確立**  
なにかあった時に対処

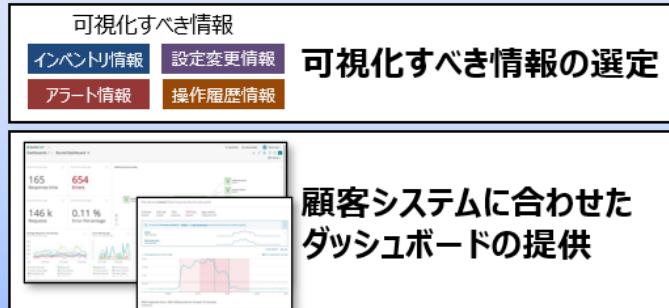
**プロアクティブな運用へのカイゼン**  
問題発生(障害・コスト増など)の防止

## 運用改善の例

### 現行インフラ基盤運用

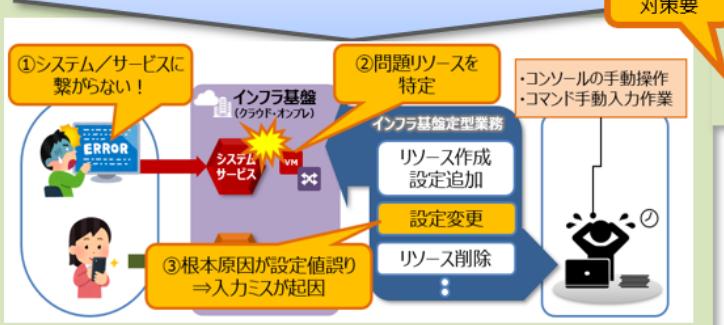


### 日立ソリューションズの豊富なソリューションとナレッジを活用 顧客システムのインフラ基盤運用を可視化



### リアクティブな運用

- 問題の発生を検知
- 問題の原因を特定
- 問題の対策に必要な情報の取得



### プロアクティブな運用

- 問題の対策が必要な運用の洗い出し
- 効率的な自動化で問題発生を防止



※本リーフレット中の会社名、商品名は各社の商標、または登録商標です。※本文中および図中では、TMマーク、®マークは表記しておりません。※製品の仕様は、改良のため、予告なく変更する場合があります。※本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法ならびに米国の輸出管理関連法規などの規制をご確認のうえ、必要な手続きをお取りください。なお、ご不明な場合は、当社担当営業にお問い合わせください。※本リーフレット中の情報は、作成時点のものです。

◎ 株式会社 日立ソリューションズ

[www.hitachi-solutions.co.jp](http://www.hitachi-solutions.co.jp)

本リーフレット掲載商品・サービスの詳細情報

[www.hitachi-solutions.co.jp/sitereliabilityengineering-solution/](http://www.hitachi-solutions.co.jp/sitereliabilityengineering-solution/)

